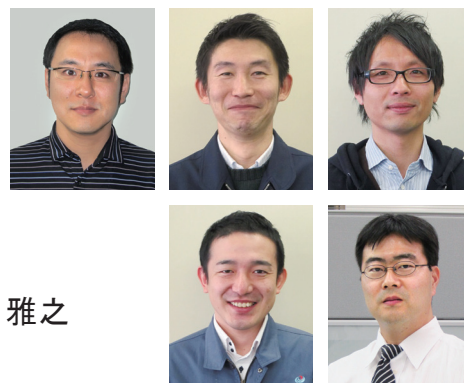


大縮尺道路地図の整備・更新方法の確立に向けた官民連携の取り組み

高度情報化研究センター 情報基盤研究室

研究官(博士(工学)) 今井 龍一 部外研究員 松井 晋 部外研究員 深田 雅之

部外研究員 木村 篤史 室長 重高 浩一



(キーワード) 道路基盤地図情報、地図調製方法、走行支援サービス

3.

共通基盤の創造

1. はじめに

大縮尺(1/1,000以上)の道路地図は、道路行政や走行支援サービスの高度化への利用など、産学官での様々な利用が期待されている。国土交通省は、道路工事完成図等作成要領を舗装工事等に適用し、大縮尺道路地図の「道路基盤地図情報」の整備を平成18年度から開始している。この整備方法は、工事完了直後に道路地図が生成される更新サイクルを確立しているのが特長である。しかし、全線の初期整備の概成には時間を要するため、現在の直轄国道の地図整備状況は約3割である。多様な利用シーンへの展開には、道路網の概成の早期実現が求められる。

このため国総研では、官民保有の電子地図、点群座標データや航空写真などの既存資源を活用した大縮尺道路地図の整備・更新手法の確立を目的として、産学官による2カ年の共同研究を開始した。本稿は共同研究の実施内容および進捗の一端を報告する¹⁾。

2. 大縮尺道路地図の整備・更新手法の研究内容

共同研究では、大縮尺道路地図の利用ニーズ²⁾に基づいて次の2つの研究テーマを設定した。

- ・テーマ1：既存資源を活用した道路基盤地図情報の整備・更新手法の確立(図-1)
- ・テーマ2：道路基盤地図情報および既存資源を活用し、走行支援サービスに必要な大縮尺道路地図の整備・更新手法の確立(図-2)

3. 今年度の取り組み状況

テーマ1では、各既存資源の特徴を分析の上、実際に既存資源を用いて道路基盤地図情報の各地物の試作を通じて現実的に実行可能な整備方法を取りま

とめた。テーマ2では、走行支援サービスに求められる大縮尺道路地図の要件と必要な地物、及びその精度を定義し、各地物の試作を通じて整備方法を取りまとめた。

4. おわりに

今後は、大縮尺道路地図の更新方法を考案し、整備・更新方法に則した地図を調製して有用性を検証する。さらには、各テーマにおける大縮尺道路地図の整備・更新要領(案)を取りまとめる予定である。

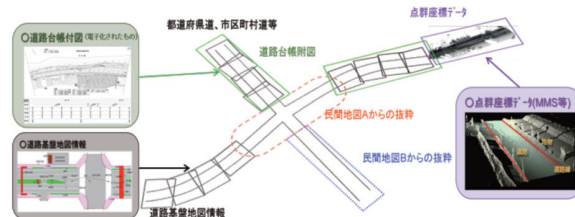


図-1 既存資源を活用した道路基盤地図情報の整備・更新イメージ

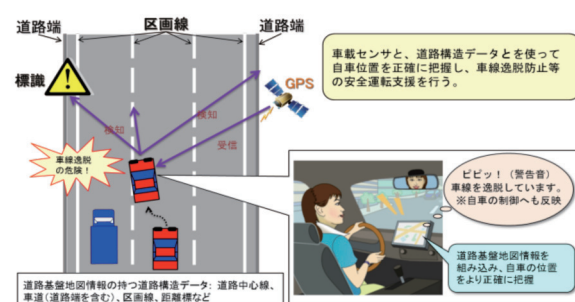


図-2 大縮尺道路地図を活用した走行支援サービスのイメージ

【参考】

- 1) 今井龍一・深田雅之・重高浩一：官民連携による大縮尺道路地図の整備・更新手法の取り組み，地理情報システム学会講演論文集，Vol.22，2013
- 2) 今井龍一・松井晋・重高浩一・佐々木洋一：道路基盤地図情報の試行提供による産学の利用ニーズの調査，地理情報システム学会講演論文集，Vol.22，2013